

第54回

SCCJセミナー

クレーム／トラブルから学ぶ化粧品開発
— 安心・安全のために必要な品質の設計と保証 —

午前の部

午後の部

10:00
～
10:05

開会の挨拶 セミナー委員長 植田 光一

化粧品による皮膚障害の最近のトピックス

藤田医科大学 医学部総合アレルギー科 教授 矢上 晶子 先生

10:05
～
11:05

いわゆる“かぶれ”である接触皮膚炎の原因の第1位は過去から現在に至るまで“化粧品”である。近年、本邦では加水分解コムギによる小麦アレルギーや美白化粧品による脱色素斑など、重大な皮膚障害事例の発生が続いたが、その後も化粧品による皮膚障害事例の報告は後を絶たない。本講演では、皮膚障害事例の具体的な臨床症状や検査方法などを挙げると共に、皮膚障害事例を最小化することを目的に設立された一般社団法人SSCI-Net (Skin Safety Case Information Network) の取り組みについて述べたい。

化粧品の使用場面に合わせた品質保証に必要な観点
安全性評価 一原料、商品、販売後—

株式会社資生堂 植木 拓朗 氏

11:05
～
11:55

化粧品は多種多様な原料や材料で構成され、その剤形はもとより使用部位や使用方法も多岐に亘ることから、原料から商品に至るまで様々な状況にあわせた評価および安全性保証が必要になる。また、適切な評価を実施するためには、時代背景や法令、各種評価方法やガイドラインなど多くの情報を把握・理解する必要がある。本講演では安全性を確保するうえで参考になる情報を交えながら、化粧品開発時のポイントを紹介する。

11:55
～
13:10

昼食休憩

■ 日 時 2019年9月20日(金)
10:00～18:25 (受付開始:9:30予定)

■ 会 場 きゅりあん(品川区立総合区民会館)
<http://www.shinagawa-culture.or.jp>
セミナー: 8階 大ホール
フリーディスカッション: 7階 イベントホール

■ 主 催 日本化粧品技術者会
TEL 045-222-1608

■ 参加費 会員:13,000円／一般:19,000円
当日受付(会員・一般共に)19,000円

■ 申込期間 2019年7月25日(木)～9月5日(木)
23時59分(Web参加申し込み)

詳細 ⇒ <https://www.sccj-ifsc.com>

品質トラブル防止のための剤型別品質保証と
安定性試験法の実際

化粧品技術アドバイザー 小林 進 氏

13:10
～
14:10

安定性の優れた製品の開発は、「安定性理論の理解と処方設計および製造現場への応用」「過去のクレームの解析と原因究明」「剤型に対応した安定性評価法(試験法)の確立と品質保証水準の設定」が三位一体となることによって可能となる。本講演では、これらの事項について解説する。また、このような対応をとっていたにもかかわらず発生した新規性の高い製品での品質トラブルと解決事例について解説する。

製品クレームに対し新製品設計段階で実施して
おきたい容器評価について

株式会社トキワ 井上 隆 氏

14:10
～
15:00

「重い」「折れる・抜ける」「漏れる」「噴霧しない・出ない」「傷がつく」「剥れる」等々、容器起因として発生するよくある製品クレームである。これらの指摘は新製品開発設計段階でしっかり予知する事で防ぐ事が可能である。○容器の適正重量、○中味の折れ抜け、○気密性、○ポンプディスペンサーの選び方、○容器の傷と印刷はがれ等、消費者の使用場面で発生するクレームに対し設計段階で確実に実施したい評価方法の一部を紹介する。

15:00
～
15:10

休 憩

化粧品の海外と日本の成分規制の相違

高橋化粧品技術相談所 高橋 守 氏

15:10
～
16:00

昨年、化粧品の出荷額は初めて1兆7千億円以上(経産省統計)を超え、輸出額は輸入額の2.5倍以上と過去にない伸びを示している。その要因として、中国をはじめアジアの人達の購入及びそれらの国々への輸出と考えられている。最近、グローバル化が叫ばれているが、日本は成分規制の面で諸外国と比べかなり異なっている。本講演では、日本とEU、アセアン、中国等の使用可能か否かの成分規制の相違を示す。

消費生活用製品の事故事例と安全対策

(独)製品評価技術基盤機構 製品安全センター 参事官 吉津 兼人 氏

16:00
～
17:00

私たちが日常使用している消費生活用製品で思わぬ事故が発生している。設計や製造上に問題があるケースも多々あるが、消費者の誤使用や不注意な取扱いによる事故の方が重篤な被害に繋がっているため、事業者には最低限の法規制を遵守するだけでなく、想定される使われ方を検証し、より安全性を高めた製品を市場に供給していくことが期待される。事故の事例は枚挙に暇がないが、事故防止に向けた安全対策の一例を紹介する。

17:10
～
18:20

フリーディスカッション

18:20
～
18:25

閉会の挨拶 セミナー副委員長 早瀬 基